

育長ほか来賓列席のもと、教職員、全校生徒が参加して除幕式がおこなわれた。「勉学」「愛校」「闘魂」の校訓をかかげ、生徒全員に徹底させるために何か一つのシンボルがあってはとの日頃の学校の意思をくんで、新校舎建築以前は、板ばり和紙に書かれていた校訓を協賛会長の江藤一明氏のご寄贈により設立された。先輩たちのよき伝統を継承し、新たな伝統を構築し、校訓を誇りにし中学校生活を送りたいものである。

坂野中学校に来られた方は、校門を入れて左側に御影石の碑が3本立っているのにお気づきのことと思われる。これは、1本目は村瀬慶子さん（円盤投・30m62）、2本目は中川正行さん（砲丸投・16m32）、どちらも全国中学校新記録である。3本目は佐川龍夫さんの「救難ベルト」、当時毎年実施されている全国発明工夫展で中央審査会において恩賜賞に選ばれたものである。恩賜賞は徳島県では初めてのことのようなのである。同時に学校賞として豊田佐吉賞が贈られる快挙ともいえるべき素晴らしい出来事であった。1校に陸上競技日本新記録2、科学の恩賜賞1と3本の柱は学校の名譽で歴史に残る誇るべきものである。3標柱の木柱を白井元校長が私費を投じて、石柱に換え、校門の左側に建て替えられたものである。



日本一の三石柱

(8) 畠山準投手の活躍



畠山準さんは本校第33回の卒業生であり、開校以来の最初のプロ野球人である。幼少より父母の熱意ある英才教育を受け、仕事を終えて帰ってきた父が毎晩自宅の庭で、裸電球の中キャッチボールをしていた姿が懐かしく思い出される。小・中・高と次第に頭角を現し、池田高校時代、高校野球の頂点である甲子園において、投手として全国制覇を成し遂げたことは十分承知のことである。

高校卒業後、プロ野球（当時の南海ホークス）に進み、投手として活躍した後、打者に転向した。その後、現在の横浜ベイスターズに移籍し活躍している。

本章「坂中 69年のあゆみ」の、「昭和 20～30年代」・「昭和 40～50年代」と「昭和 60～平成 10年代」の前半部については、創立 50周年記念誌『久遠の光』から引用させていただきました。表現の仕方等も含めてそのままの引用となっております。